

愛媛県文化協会長賞 レポート部門
 「愛媛と台湾を野球でつなげた近藤兵太郎」
 松山市立勝山中学校 第1学年 鹿見 莉希

愛媛と
台湾を

野球でつなげた

近藤兵太郎

松山市立勝山中学校
 1年5組
 鹿見 莉希

松山商業野球部との最後

兵太郎…公学校に勤務しながら、松山商業野球部監督は継続していた。

大事な公式戦は、夏休み中に行われることが多いため、夏休みになると、急に松山に帰る。



第6回中等学校野球優勝大会愛媛県大会
 松山中を7対0で完封 優勝
 第6回中等学校野球優勝大会四国予選
 香川商業を8対1で破る 全国大会へ
 第6回中等学校野球優勝大会
 一回戦：鴻城中10対1勝 二回戦：福業19対0勝
 準決勝：豊後4対3勝 → バスト4

大正10年(1921年)第7回全国中等学校野球優勝大会

前年の選手のうち、
 ・藤本定義
 ・近藤順
 ・瀬尾益美の3人を残すだけで、**留体化**していた。

投手：藤本定義 補手：西本祥太郎
 一塁：児島見 二塁：中村勝政
 三塁：森茂雄 遊撃手：近藤順
 左翼：岸思槐 二 中堅：瀬尾益美
 右翼：松木昌治 を配置して臨んだ。

二回戦：明倫中を5対4で破る
 三回戦：京都一商と対戦。7対1で敗れた

大正11年(1922年)第8回全国中等学校野球優勝大会

決勝進出を目指して乗りこんだが準決勝で神戸商に2対1で敗れた



大正12年(1923年)第9回全国中等学校野球優勝大会
 甲陽中と対戦。9回表下逆転負け
 大正13年(1924年)準決勝松山商業に敗れた
 大正14年(1925年)予選敗退

嘉義農林学校野球部

兵太郎一家が嘉義に居住する5か月前



嘉義農林学校が開校したのは、大正8年(1919年)4月。
 ・正式名称は、台湾公立嘉義農林学校
 ・三年制下全寮制
 ・野球部ができたのは開校から9年後

兵太郎は嘉義農林に野球部ができたことを耳にしたが興味を持たないようにした

なぜか？ 負けることが怖くなった。
 大正14年の第2回全国選抜中等学校野球大会では、松山が初選出された。松山は大会で敗れたが、大会で負けたから。

野球部部長の**洪田次実**が家を訪ねた。
 洪田は、嘉義農林野球部の内情を語り指導を引き受けてくれるよう要請した。
 兵太郎は、はきり断った。

洪田は何度も足を運んだ。

兵太郎は温泉帰りに、野球部の練習を見た。
 松商野球部で実践してきたことをもう一度、嘉義で完成させたい!



と思い指導を引き受けた。嘉義公園グラウンドでの記念写真

部員と兵太郎の初対面

このときから、兵太郎と野球部員との絆が生まれた。

嘉義農林学校野球部について

・大和民族、漢民族、原住民族の三民族混成のチーム
 ・部員は14人(日本人8人、漢人3人、原住民族3人)